

季節の中で……



いわきの空に響け！

— じゃんがら念仏を伝える

いわき市立平第五小学校

六月になると、いわきの辻々には「じゃんがら念仏踊り」の賑やかでメランコリックな音が響き始める。新盆回りのための青年達の練習が始まったのである。

古に祐天上人が、庶民の宗教心を高めんとして始められたこの念仏踊りは、現在いわきの地では夏には欠かせない伝統行事である。

ここ飯野の里にある平第五小学校では、六年生の矢部君や高木さんら十数名が、この伝統芸能の灯を守ろうと週一度の練習に汗を流している。祖父が地元の念仏踊りの指導者だという清水君も「小さいころから見聞きしてきたので、クラブへも当然のように入りました」と話してくれた。

輪になって踊りは続く。鉦と太鼓が校庭に響く。子ども達の祈りが、いわきの空に吸いこまれていく。楽しいひと時である。

いわき市立平第五小学校のゆとりの時間の活用例で、四年生以上のクラブ活動として実践し、担任の加藤慶子先生の熱心な念仏踊りの指導のせいか、子ども達といっしょにわきあいあいと活動している。時期になるとあちこちから出演依頼の声がかかることである。